

(3) 本年度の学校評価

本年度の重点目標	生徒の成長を第一に考える学校づくりを推進する。 ――生徒が良い表情で登下校する学校を目指す―― ――厳しいなかにも愛情のこもった指導を粘り強くおこなう――		
分掌	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	P T A行事の活性化	役員会・委員会で慎重に企画、検討を行う。各種研修会、講演会への参加者を増やす。案内が保護者の手元に確実に届くようにする。	P T Aと丁寧に議論を重ねて、工夫を凝らす、連絡徹底のため、絆ネットも積極的に活用する。
	学校行事の円滑な運営	行事開催に向けて、早い段階から分掌、学年への調整をはかる。生徒に自分達の行事・式典であることを自覚させる。	予想外のことが起きても、臨機応変に対応する。教職員の負担軽減のため省力化する。
教務部	カリキュラム・マネジメントの促進	各教科、分掌、学年で PDCA サイクルを回し、学校改善をすすめる中で、今後の学校のあるべき姿を考える。	学校全体で取り組む雰囲気醸成するために、様々な人がカリキュラム・マネジメントの取組に関わり、PDCA に対しての意識を高める。
	授業改善	主体的・対話的で深い学びを意識した授業をどの教科でも行う機会を増やすために、公開授業時に、それを踏まえた研究授業を行う。	教科や各教員によって意識の差があるので、現職研修等を通じて、意識レベルを高めること。
	授業時間確保	学校の根幹は授業であることを認識する。授業時間確保のために、学校全体の教育活動を精選する。	全職員が、授業時間確保に対する意識を高めてもらうこと。
生徒指導部	生徒の将来を考えた身だしなみ指導・マナー指導	昨年度までの指導を継続していく。生徒の内面からの規範意識を高めるために、教員と生徒が向き合える関係づくりのための機会や時間を確保する。	進路指導と関連付けした指導を継続し、自ら正すことのできる意識を育てる。また校則検討委員会を設置し、生徒が校則について考えて意見を述べる機会を設ける。
	いじめ未然防止の強化・SNS に対する指導の強化	面談とアンケートを適切な時期に実施する。SNS に対する正確な知識と危険性について指導を強化する。	アンケートや面談期間の適切な設定を行う。また学年及び分掌、S S W との連携を図る。外部機関との連携を図る。
進路指導部	入学試験、就職試験における環境変化への対応	入試環境の変化に対応した情報提供を行い、主体的に進路実現に取り組む姿勢を育てる。	一般入試、学校推薦型、総合型入試のそれぞれに対応した指導方法を確立する。
		キャリア教育、就職指導の充実を図り、社会環境の変化に対応できる就職指導を行う。	生徒自身が自己理解と職業研究を深め、ミスマッチのない選択ができるよう指導する
		進路行事や総合探究の実施方法について検討し、進路指導体制の改善を図る。	従来の方針の実績を生かしつつ、生徒の主体的な活動を促す取り組みを行う。
保健厚生部	心身の健康維持と環境美化に対する意識の向上	教員が教育相談に対する専門性を高める。S C や S S W の活用を充実させる。	教育相談委員会で S C や S S W の助言を活用する。現職教育として S S W からの講演を行う。配布物、ポスター等を配布し、啓発活動を行う。
		健康で安全な学習環境を自ら作り上げる態度を養う。	校内環境の美化だけでなく、汚さないようにする意識を高めさせる。
特別活動部	主体性を持って生徒会活動や部活動、ボランティア活動に積極的に取り組む意識を作る。	生徒会が主体的に取り組むことのできる学校行事にするため、支援や指導を行う。部活動のさらなる活性化のための支援や、ボランティア活動に積極的に取り組む意識が高まるような指導を行う。	生徒会自らが主体的に取り組むため、話し合いや助言を行い学校行事の充実を図る。充実した部活動の方策を検討し、さらなる部活動の活性化をめざす。情報提供や意義を連絡して、ボランティア活動の参加率を高め、地域や社会に貢献する望ましい資質の向上を図る。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	2023 東浦高校グランドデザインに基づき、「生徒の成長を第一に考える学校づくり」を推進する。 1 学校全体の取り組みとしてとして、確かな学力・粘り強い生徒の育成を図る。 2 学習・進路・生徒指導の取り組みとして、組織的な指導方法・指導体制の工夫を行う。 3 公開授業を活用して、授業改善に努める。 4 地域連携として、保護者・地域・町内の中学校・小学校との連携を今以上に強化する。 5 学校いじめ防止基本方針に基づいて、いじめのない学校を実現する。 6 教員の働き方改革を進め、生徒に向き合える時間を確保していく。 7 愛知県立学校の教職員の業務量の適切な管理等に関する規則・方針に基づき、在校時間を客観的に把握し、時間外在校時間の上限（1 か月 45 時間、1 年 360 時間）が遵守できるよう業務改善・分担の見直し等を行う。		

(4) 前年度の学校評価

ア 自己評価結果等

本年度の重点目標	生徒の成長を第一に考える学校づくりを推進する。 ー 生徒が良い表情で登下校する学校を目指す ー ー 厳しいなかにも愛情のこもった指導を粘り強くおこなう ー		
分掌	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	PTA行事の活性化	役員会・委員会で、慎重に企画、検討を行う。各種研修会、講演会への参加者を増やす。案内が保護者の手元に確実に届くようにする。	コロナ禍においても可能な活動を模索し、手探りの中で行事を実施した。相互のコミュニケーションが引き続いての課題である。
	学校行事の円滑な運営	行事開催に向けて、早い段階から分掌、学年への調整をはかる。生徒に自分達の行事・式典であることを自覚させる。	コロナ禍で行事や式典も制約を受けた。さらに工夫と努力が必要である。また、通信環境の整備が必要である。
教務部	カリキュラム・マネジメントの促進	各教科、分掌、学年で PDCA サイクルを回し、学校改善をすすめる中で、今後の学校のあるべき姿を考える。	適宜生徒の実状を把握できるよう研修やアンケートを実施した。次年度に繋がる改善、継続的に実行できるかどうか課題である。
	授業改善	主体的・対話的で深い学びを意識した授業をどの教科でも行う機会を増やすために、公開授業時に、それを踏まえた研究授業を行う。	公開授業内で行えるよう働きかけを行った。また、参観を促して授業改善の取組みを促進した。さらに多くの職員が取り組めるかどうか課題。
	授業時間確保	学校の根幹は授業であることを認識する。授業時間確保のために、学校全体の教育活動を精選する。	授業時間数は例年並みに確保できた。ただし生徒の欠席が増えたことで、知識の定着には課題が残る。
生徒指導部	生徒の将来を考えた身だしなみ指導・マナー指導	昨年度までの指導を継続していく。生徒の内面からの規範意識を高めるために、教員と生徒が向き合える関係づくりのための機会や時間の確保	来年度は身だしなみ指導の実施方法を改善し、自発的に身だしなみが整えられるような働きかけを考えていきたい。
	いじめ未然防止の強化とSNSに対する指導の強化	面談とアンケートを適切な時期に実施する。SNSに対する正確な知識と危険性について指導を強化する。	面談・アンケート結果を参考に教育相談委員会を適宜開催し、組織で対応する体制を整える。来年度も早い時期に SNS 講話を実施して、指導の強化を図りたい。
進路指導部	社会環境の変化に応じた進路指導を行う。	進学試験に関わる情報を収集し、変化に応じた進路行事や環境整備を行う。	入試環境の変化について情報を素早く収集し、環境の整備を行い、進路意識の向上と学力伸長を促す。
		インターンシップ、就職指導の充実を図り、社会環境の変化に対応できる就職指導を行う。	早い段階から、生徒自身が自己理解と職業研究を深め、ミスマッチのない選択ができるよう指導する。
		求人情報や入学試験の情報の提供方法を検討し、時期にあった情報提供を行う。	従来の行事を改善しながら、新しい手立てを検討し、適宜改善を加える。
保健厚生部	健康維持と環境美化に対する意識の向上	新型コロナウイルス感染症への対策を通して健康を守る態度や行動習慣を身につけさせる。	手洗い、うがい、マスクの着用はしっかりできたが、昼食時の黙食が課題である。
		健康で安全な学習環境を自ら作り上げる態度を養う。	監督の先生の指示があれば清掃がしっかりできたが、自ら進んで行う自主性を養いたい。
特別活動部	主体性を持って生徒会活動や部活動、ボランティア活動に積極的に取り組む意識を作る。	生徒会が主体的に取り組むことのできる学校行事にするため、支援や指導を行う。部活動のさらなる活性化のための支援や、ボランティア活動に積極的に取り組む意識が高まるような指導を行う。	各行事において、生徒会の主体性は前年度より向上し、自ら考え提案できる生徒が増えた。今後は活動自体への新たな提案ができるようになることが課題である。部活動においては、顧問の献身的な指導により日々の活動は活発化し、大会で勝ち進む部が増加した。ボランティア活動については平年並みであった。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	2022 東浦高校グランドデザインに基づき、「生徒の成長を第一に考える学校づくり」を推進する。 1 学校全体の取り組みとしてとして、生徒の主体性・協働性・粘り強さ・真摯さを育む。 2 学習・進路・生徒指導の取り組みとして、指導方法・指導体制の工夫を行う。 3 公開授業を活用して、授業改善に努める。 4 地域連携として、保護者・地域・町内の中学校・小学校との連携を今以上に強化する。 5 学校いじめ防止基本方針に基づいて、いじめのない学校を実現する。 6 教員の働き方改革を進め、生徒に向き合える時間を確保していく。 7 在校時間等の削減への取り組みは引き続き継続していく。		